

2026年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月6日

上場会社名 マークラインズ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3901 URL <https://www.marklines.com>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 酒井 誠
 問合せ先責任者（役職名） 財務経理部長（氏名） 釜澤 英紀（TEL）03-4241-3901
 半期報告書提出予定日 2026年8月6日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2026年1月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期中間期	2,863	△2.2	1,115	4.0	1,146	6.0	797	6.1
2025年12月期中間期	2,929	5.2	1,071	△3.7	1,081	△3.4	751	△4.6

（注）包括利益 2026年12月期中間期 1,149百万円（61.2%） 2025年12月期中間期 712百万円（△17.1%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	62.59	—
2025年12月期中間期	56.84	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期中間期	9,649	7,061	72.8
2025年12月期	8,808	6,574	74.2

（参考）自己資本 2026年12月期中間期 7,024百万円 2025年12月期 6,535百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	52.00	52.00
2026年12月期	—	0.00	—	—	—
2026年12月期（予想）	—	—	—	58.00	58.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,150	10.4	2,350	12.1	2,380	10.9	1,660	9.2	130.23

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 ー社(社名)ー、除外 ー社(社名)ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年12月期中間期	13,228,800株	2025年12月期	13,228,800株
② 期末自己株式数	2026年12月期中間期	482,287株	2025年12月期	482,280株
③ 期中平均株式数(中間期)	2026年12月期中間期	12,746,518株	2025年12月期中間期	13,228,321株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理性があると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、P5「(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 中間連結貸借対照表	6
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	8
中間連結損益計算書	8
中間連結包括利益計算書	9
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における当社を取り巻く事業環境について、2025年度は主要顧客である日系メーカー（海外現地法人含む）が、トランプ政権による関税政策、世界的なEV需要の一時的な伸び悩み、中国メーカーとの競争激化などから業績が悪化し当社グループの受注動向にも影響を与えましたが、2026年度に入り中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の高騰を契機にEV販売台数が増加していることや円安基調の為替推移を背景として、新事業年度を迎えた日系メーカーにとっては業績面で追い風となりつつあり、外部環境は転機の兆しを見せております。

このような状況の下、情報プラットフォーム事業については、2001年にサービスの提供を開始して以来、25年間に亘って蓄積してきた販売/生産台数、モデルチェンジ予測、市場・技術レポート、部品サプライチェーンなどの豊富なコンテンツについてRAG（検索拡張生成）を活用し、利用者からの質問に対し必要かつ信頼性の高い「データ」を提示するとともに、LLM（大規模言語モデル）が「分析」した結果を文章で自動生成するAI機能「マークラインズ生成AI」のβ版を1月にリリースしました。当中間連結会計期間においては、当該機能を実際にご利用いただいた方々から得られるフィードバックをもとに機能改善を継続的に進め、ユーザーニーズへの適合性を高めるとともに、回答速度の改善も図りサービスの付加価値向上に注力しました。また、既存顧客に対する価格改定の効果が2025年12月更新の契約分から順次発現し、売上高は前年同期比で増加しました。

情報プラットフォーム事業以外の事業については、市場予測情報販売事業は、売上高、セグメント利益ともに前期並みの水準となりました。プロモーション広告事業は、引き続き好調に推移し売上高、セグメント利益ともに増加しました。自動車ファンド事業は、関連会社である「自動車産業支援ファンド2021投資事業有限責任組合」から受け取る管理報酬について、組合契約に基づく算定額が変化したため売上高が減少しました。人材紹介事業は、自動車メーカーの求人ニーズが回復傾向にあることから当該事業の成約も持ち直しており、売上高は前年同期比で増加しました。

また、当中間連結会計期間よりベンチマークセンター及び本社における採算性をより明確にする目的から、車両分解・計測事業、車両・部品調達代行事業、コンサルティング事業、及び分解調査データ販売事業の4事業をリバースエンジニアリング事業及びコンサルティング事業の2事業に再編し、事業活動を推進しました。神奈川県厚木市のベンチマークセンターで実際にモノを扱うリバースエンジニアリング事業は、技術展示会開催などを通じて2024年度に新設した同センターのPR・マーケティング活動を強化してまいりました。その結果、上期の後半から自動車/大手部品メーカーとの商談が活発化しております。コンサルティング事業においては、自動車/大手部品メーカーからの受注案件が減少したことにより、売上高、セグメント利益ともに減少しました。

以上の結果、当中間連結会計期間の当社グループ全体の業績については、売上高は2,863百万円（前年同期比2.2%減少）となりましたが、営業利益については、1,115百万円（前年同期比4.0%増加）、また、経常利益についても、1,146百万円（前年同期比6.0%増加）と3半期ぶりに対直近半期で増益に転じました。さらに、親会社株主に帰属する中間純利益は、797百万円（前年同期比6.1%増加）となりました。

2026年1月にリリースした「マークラインズ生成AI」については、広範囲な情報をカバーする汎用型AIサービスではなく自動車産業に特化した専門性が高い垂直型AI（Vertical AI）として開発を進めてまいります。今後、当該サービスを質問に対して「データ」及び「分析」した結果を返すだけでなく、企業的意思決定と実行を支援する業務インフラとして深化させてまいります。

また、四半期ごとの業績については以下のとおり推移しました。

○ 四半期毎の連結業績の推移

		前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日) (百万円)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日) (百万円)	増減率 (%)
第1四半期連結会計期間	売上高	1,587	1,469	△7.4
	営業利益	590	543	△7.9
第2四半期連結会計期間	売上高	1,342	1,394	3.9
	営業利益	481	571	18.7
中間連結会計期間	売上高	2,929	2,863	△2.2
	営業利益	1,071	1,115	4.0

○ 第1四半期連結会計期間

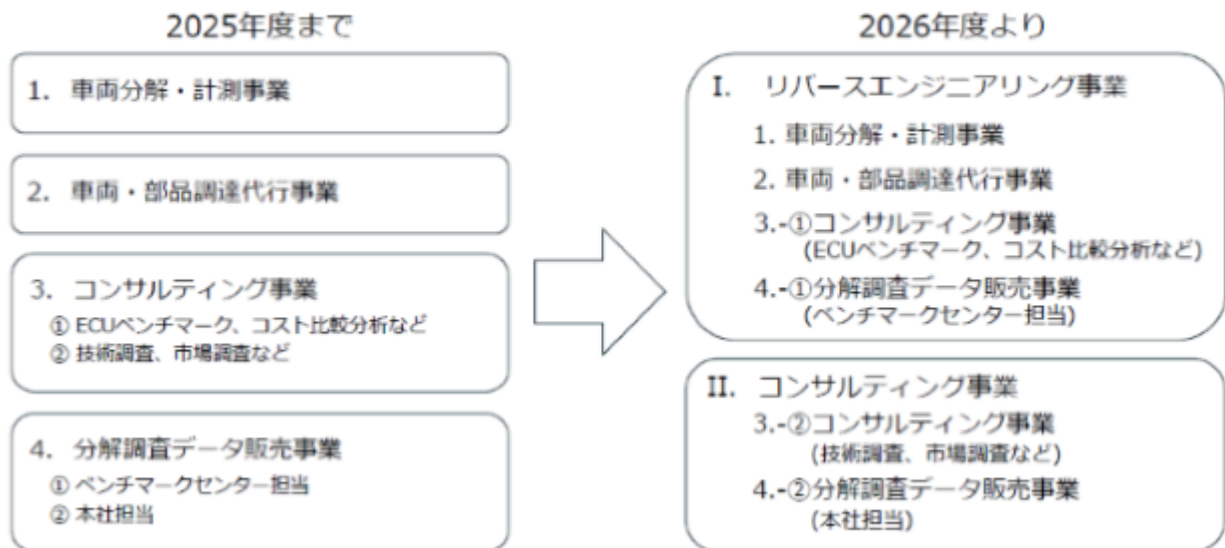
第1四半期連結会計期間は、コンサルティング事業、及びリバースエンジニアリング事業において自動車/大手部品メーカーからの受注が減少し売上高が大幅に落ち込んだことなどの影響を受け連結全体の売上高は前年同四半期比7.4%減少となりました。また、営業利益については、売上高の減少に加え本社、上海子会社、及びアメリカ子会社のオフィス拡張・移転に伴う一時費用を計上した影響を受け、前年同四半期との比較で7.9%の減少となりました。

○ 第2四半期連結会計期間

第2四半期連結会計期間は、情報プラットフォーム事業において、売上高が価格改定及び人民元高による為替変動の効果により前年同四半期比12.3%の増加となったことにより、セグメント利益が対前年同四半期で19.7%増となりました。さらに、リバースエンジニアリング事業において、ベンチマークセンターの稼働率が上昇したことによりセグメント損益が改善しました。これらの結果、連結全体の売上高、営業利益ともに対前年同四半期で増加しました。

なお、前述のとおり車両分解・計測事業、車両・部品調達代行事業、コンサルティング事業、及び分解調査データ販売事業の4事業をリバースエンジニアリング事業及びコンサルティング事業の2事業に再編しております。当中間連結会計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいています。

【セグメント区分変更のイメージ】



各セグメントの経営成績は以下のとおりであります。

○ 事業セグメント別損益（連結ベース）

		前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日) (百万円)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日) (百万円)	増減率 (%)
情報プラットフォーム事業	売上高	1,884	2,042	+8.4
	セグメント利益	905	996	+10.0
市場予測情報販売事業	売上高	187	181	△3.3
	セグメント利益	59	57	△3.2
プロモーション広告事業	売上高	68	77	+13.5
	セグメント利益	53	56	+4.2
コンサルティング事業	売上高	228	175	△23.5
	セグメント利益	61	26	△57.1
自動車ファンド事業	売上高	19	9	△53.3
	セグメント利益又は 損失（△）	8	△0	—
人材紹介事業	売上高	49	67	+34.8
	セグメント損失	△11	△1	—
リバースエンジニアリング事業	売上高	490	305	△37.7
	セグメント損失	△3	△15	—
その他	売上高	—	4	—
	セグメント損失	△3	△4	—
売上高 計		2,929	2,863	△2.2
セグメント利益 計		1,071	1,115	+4.0

- 情報プラットフォーム事業：売上高2,042百万円（前年同期比8.4%増加）、セグメント利益（営業利益）996百万円（前年同期比10.0%増加）

当中間連結会計期間における情報プラットフォーム事業は、契約数は日本を中心に減少した一方で、既存顧客の価格改定の効果が発現し、円建ての契約を中心に平均契約単価は上昇するとともに、円安の効果も手伝って売上高、セグメント利益ともに増加しました。

○ 情報プラットフォーム事業地域別売上高

地域	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日) (百万円)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日) (百万円)	増減率(%)
日本	688	749	+8.9
中国	308	342	+11.1
アジア	356	374	+5.2
北米	289	309	+7.0
欧州	225	245	+9.0
その他	16	20	+24.5
合計	1,884	2,042	+8.4

- 市場予測情報販売事業：売上高181百万円（前年同期比3.3%減少）、セグメント利益（営業利益）57百万円（前年同期比3.2%減少）

当中間連結会計期間の市場予測情報販売事業は、EV市場の減速、地政学リスク、原材料費高騰などへの対応といった複合的な要因による生産拠点の再編などの動きが出ており、予測情報に対するニーズも引き続き高い状態が続いており、売上高、セグメント利益ともに前年同期比でほぼ横ばいの結果となりました。

- プロモーション広告事業：売上高77百万円（前年同期比13.5%増加）、セグメント利益（営業利益）56百万円（前年同期比4.2%増加）

当中間連結連結会計期間のプロモーション広告事業は、前期に実施した人員増強により顧客に対するフォローアップ体制が整いリピート受注が引き続き好調に推移したこと、及び1件当たりの受注額が上昇傾向にあることなどを受け売上高、セグメント利益ともに前年同期比で増加しました。

- コンサルティング事業：売上高175百万円（前年同期比23.5%減少）、セグメント利益（営業利益）26百万円（前年同期比57.1%減少）

当中間連結会計期間のコンサルティング事業は、自動車メーカーによる電動化の戦略転換の影響を受け、コンサルティング、及び分解調査データ販売サービスともに自動車/大手部品メーカーからの引き合いが減少し、受注も低調に推移しました。その結果、売上高、セグメント利益ともに大きく減少しました。

- 自動車ファンド事業：売上高9百万円（前年同期比53.3%減少）、セグメント損失（営業損失）0百万円（前年同期比―）

当中間連結会計期間の自動車ファンド事業は、関連会社から受け取る管理報酬について、2026年度より組合契約に従い、ファンドの出資総額から前期末の投資残高を基準として算定した金額を売上高として計上する方式へ変更したため、前年同期比で減少しました。また、セグメント損益については売上高の減少を受けセグメント損失を計上しました。なお、当該事業において出資した株式会社ミックウェアは、2026年5月にNASDAQ Global Marketへ上場しました。

- 人材紹介事業：売上高67百万円（前年同期比34.8%増加）、セグメント損失（営業損失）1百万円（前年同期比―）

当中間連結会計期間の人材紹介事業は、自動車メーカーの求人ニーズが回復傾向にあり、成約件数も26件（前年同期22件）と対前年同期で増加しました。また、顧客と締結したリテナー契約が貢献するなど、売上高は前年同期比34.8%増加となりました。これを受けセグメント損失は改善しました。

- リバースエンジニアリング事業：売上高305百万円（前年同期比37.7%減少）、セグメント損失（営業損失）15百万円（前年同期比―）

当中間連結会計期間におけるリバースエンジニアリング事業は、自動車/大手部品メーカーからの受注件数が減少し売上高、セグメント利益ともに対前年同期で減少となりました。ただし、第2四半期連結会計期間3か月間については、車両分解・計測サービスにおいて内製化率が高まったこと、及び車両・部品調達代行サービスにおいては高付加価値案件が増加したことにより粗利率が上昇し、セグメント損益は対前年同四半期で改善しており事業として立ち上がり軌道に乗りつつあります。また、足下では、自動車/部品メーカーの動きが活性化しており分解、計測および実験などに係る商談が増加傾向にあります。

- その他：売上高4百万円（前年同期比―）、セグメント損失（営業損失）4百万円（前年同期比―）

その他は報告セグメントに含まれない事業セグメントである車載ソフトウェア開発受託事業で構成されています。当該事業を推進する株式会社マークラインズソフト開発は2025年4月に設立が完了し事業活動を開始しております。当中間連結会計期間において、受託案件の検収があり売上を計上しておりますが、発生した固定費を回収しきれずセグメント損失を計上しております。

（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年2月12日に公表しました2026年12月期の通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,802,363	4,540,264
売掛金	291,801	256,861
商品	60,248	26,575
仕掛品	18,527	1,219
前渡金	8,980	15,244
前払費用	73,445	61,046
その他	43,939	46,043
貸倒引当金	△2,628	△3,069
流動資産合計	4,296,679	4,944,185
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	823,309	801,202
減価償却累計額	△71,540	△69,394
建物及び構築物(純額)	751,769	731,807
土地	369,801	369,801
その他	159,804	160,908
減価償却累計額	△86,577	△84,797
その他(純額)	73,226	76,111
有形固定資産合計	1,194,796	1,177,719
無形固定資産		
ソフトウェア	81,867	101,508
その他	24,409	4,865
無形固定資産合計	106,276	106,374
投資その他の資産		
投資有価証券	2,806,041	3,135,716
長期前払費用	469	7,961
敷金及び保証金	291,816	183,891
長期預金	69,772	74,336
繰延税金資産	43,128	19,117
投資その他の資産合計	3,211,228	3,421,023
固定資産合計	4,512,302	4,705,117
資産合計	8,808,981	9,649,302

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	111,664	55,177
未払金	76,494	40,709
未払費用	64,005	109,343
未払法人税等	273,498	327,502
未払消費税等	108,388	64,694
前受金	1,523,392	1,914,132
役員賞与引当金	15,000	8,500
預り金	31,450	31,433
賞与引当金	16,611	24,869
その他	-	529
流動負債合計	2,220,505	2,576,891
固定負債		
退職給付に係る負債	13,792	11,103
固定負債合計	13,792	11,103
負債合計	2,234,298	2,587,994
純資産の部		
株主資本		
資本金	372,711	372,711
資本剰余金	290,518	290,518
利益剰余金	6,738,689	6,873,657
自己株式	△1,000,724	△1,000,733
株主資本合計	6,401,195	6,536,153
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43,414	374,637
為替換算調整勘定	90,621	114,184
その他の包括利益累計額合計	134,036	488,821
非支配株主持分	39,452	36,332
純資産合計	6,574,683	7,061,308
負債純資産合計	8,808,981	9,649,302

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
売上高	2,929,549	2,863,982
売上原価	1,045,846	892,790
売上総利益	1,883,702	1,971,192
販売費及び一般管理費		
販売促進費	13,888	15,195
販売手数料	187	256
広告宣伝費	10,638	12,534
役員報酬	38,327	36,192
給料及び手当	376,389	387,074
賞与引当金繰入額	14,796	13,712
退職給付費用	7,977	10,725
法定福利費	62,794	66,324
減価償却費	10,183	15,762
貸倒引当金繰入額	74	441
賃借料	53,902	69,899
その他	222,585	227,777
販売費及び一般管理費合計	811,746	855,896
営業利益	1,071,955	1,115,295
営業外収益		
受取利息	13,173	26,365
受取配当金	2,625	2,044
為替差益	-	3,337
その他	5,621	5,330
営業外収益合計	21,419	37,077
営業外費用		
持分法による投資損失	10,741	5,138
為替差損	1,021	-
その他	26	323
営業外費用合計	11,789	5,462
経常利益	1,081,586	1,146,911
税金等調整前中間純利益	1,081,586	1,146,911
法人税、住民税及び事業税	324,949	333,562
法人税等調整額	6,469	18,681
法人税等合計	331,419	352,244
中間純利益	750,167	794,667
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△1,765	△3,119
親会社株主に帰属する中間純利益	751,933	797,786

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
中間純利益	750,167	794,667
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,784	11,181
為替換算調整勘定	△27,057	23,562
持分法適用会社に対する持分相当額	△2,361	320,041
その他の包括利益合計	△37,203	354,785
中間包括利益	712,963	1,149,453
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	714,729	1,152,572
非支配株主に係る中間包括利益	△1,765	△3,119

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	情報プラットフォーム事業	市場予測情報販売事業	プロモーション広告事業	コンサルティング事業	自動車ファンド事業	人材紹介事業
売上高						
外部顧客への売上高	1,884,407	187,659	68,181	228,964	19,438	49,955
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,884,407	187,659	68,181	228,964	19,438	49,955
セグメント利益又は損失(△)	905,821	59,703	53,876	61,960	8,868	△11,810
	報告セグメント		その他 (注)1	中間連結損益 計算書計上額 (注)2		
	リバースエンジニアリング事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	490,942	2,929,549	—	2,929,549		
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—		
計	490,942	2,929,549	—	2,929,549		
セグメント利益又は損失(△)	△3,000	1,075,419	△3,463	1,071,955		

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメント含まれない事業であり、車載ソフトウェア開発受託事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					
	情報プラットフォーム事業	市場予測情報販売事業	プロモーション広告事業	コンサルティング事業	自動車ファンド事業	人材紹介事業
売上高						
外部顧客への売上高	2,042,844	181,425	77,406	175,230	9,072	67,363
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,042,844	181,425	77,406	175,230	9,072	67,363
セグメント利益又は損失(△)	996,544	57,768	56,160	26,573	△182	△1,495
	報告セグメント		その他 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2		
	リバースエンジニアリング事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	305,728	2,859,070	4,912	2,863,982		
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—		
計	305,728	2,859,070	4,912	2,863,982		
セグメント利益又は損失(△)	△15,164	1,120,204	△4,908	1,115,295		

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメント含まれない事業であり、車載ソフトウェア開発受託事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「車両分解・計測事業」、「車両・部品調達代行事業」、「コンサルティング事業」及び「分解調査データ販売事業」の4事業について、ベンチマークセンター及び本社における採算性をこれまでより明確にする目的から「リバースエンジニアリング事業」及び「コンサルティング事業」の2事業に変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しております。